発表番号　１７　　義務教育課

１　研究主題　　**「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図る教育の充実に向けて」**

２　研究の具体

本県では、平成２２年度より、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に向けた連携の推進を図るために、県東部（東讃）と県西部（西讃）の小学校教諭各１名ずつが、近隣の幼稚園等において、１年間、幼児期の教育に携わり理解を深めることを目的とした、幼児教育長期研修を実施している。

【研修内容】

①幼児期と児童期の教育課程・指導方法の違いや、子供の発達や学びの現状等を理解する。

②コーディネーター役となり、幼児と児童の交流活動及び教員等間の研修の計画を立て、実践につなぐ。

③接続期（五歳児後期・一年生入学期）の指導の工夫及び発達や学びをつなぐ教育課程の編成や指導計画の作成を行う。

④家庭（保護者）との連携のために必要な関係の構築を図る。

なお、一年間の研修を終えた派遣教員は、翌年、小学校に戻ってからも、引き続き実践的研究を行う。

今年度派遣教員からは、「今、幼稚園の中で感じていること」、昨年度派遣教員からは、「一年間の研修からの学びをスタートカリキュラムにどう生かしたか」についての発表があった。

子どもの目線に立ったスタートカリキュラムの実践

善通寺市立竜川小学校　大竹　咲枝

○幼児教育との連続性

本県の幼児教育の指針となるべき「香川県幼児教育振興プラン」の基本的な考え方として、「めざす子どもの姿」を「心いっぱい、体いっぱい　遊びこむ子ども」と掲げられており、幼稚園等の就学前教育施設では、状況に応じて遊びの内容を変更したり、時間を延長したりし、子どもたちが心ゆくまで遊びこむことができる時間を保障している。このことを踏まえ、授業の１単位時間を４５分にこだわらず、弾力的に行う。

また、朝の時間（１校時が始まるまでの時間）には、自由遊びや歌、読み語り等を多く取り入れ、友達との関わりを広げながら、楽しい気持ちで１日のスタートが切れるようにする。

○週のねらいに応じた学習計画の作成及び実施

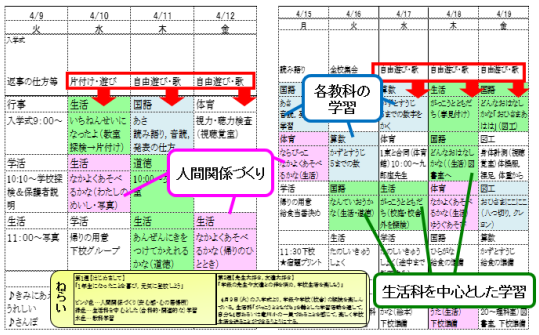
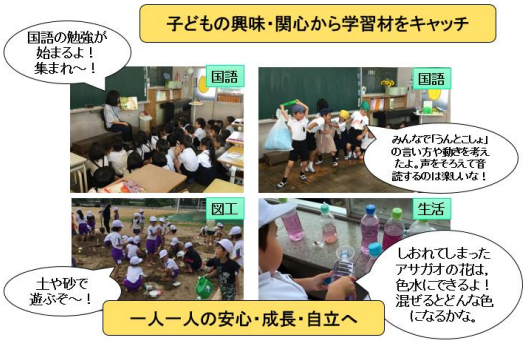
長期的な視点で子どもの学びや育ちを捉えることができるよう、月や週といった比較的長いスパンねらいを考える。

学習を３類型（「人間関係づくり」「生活科を中心とした学習」「各教科の学習」）に分類し、週のねらいに応じた一日の学習計画を立て、実施する。

○教職員間の協力体制

管理職をはじめとする多くの教職員の協力があってこそ、スタートカリキュラムの作成･実施･改善が実現できる。

○「幼児教育との連続性」と「スタートカリキュラムの３類型」



3. 各教科の学習